リステラス星圏史略
古資料ﾌｧｲﾙ
5-X-1-6-2
『未完史』
第１部　第６章
２．アトムの子ら。

（旧題：『俺と好』）
（～１９８７年）
【　未　完　】

霧樹里守 is 土岐真扉
as
遠野真谷人

（中表紙）

リステラス星圏史略

古資料ﾌｧｲﾙ

5-X-1-6-2

『未完史』

第１部　第６章

扉を開けて。

２．アトムの子ら。

（この話の前の部分はこちらでお読み頂けます。）
↓
http://p.booklog.jp/book/111240/read
リステラス星圏史略
古資料ﾌｧｲﾙ
5-X-1-5-1
『未完史』
第１部　第５章
１．月を売った男。

（１）

「…そして混乱の大迫害時代、末期にいたってＥＳＰ狩りは過酷をきわめ、そして時を同じくして、くだんの隕石さわぎは起こったのよ。」

　陽光…おひさま色のながい髪の少女は、半跏趺座のあしをくみかえて話を続けた。

「月の何分の一かの質量とはいえ、そのままのコースでは、もののみごとに正面からぶつかるはずで…　夜空に銀の球体がおおきくなるにつれて、ずいぶんな天変地異がみられたということだわ。

　今残る地表の荒廃のあとには、この時の被害によったものが沢山ある。

　地震、火山の噴火、異常なほどの高潮。

　バンアレン帯や、すでに酸や放射能に侵されつつあった海流、地殻プレートそのものにまで影響が出るにおよんで、騒動のなか、第三次世界大戦はなし崩しに終結。

　これは、 "勝者なき敗戦" と呼ばれて、旧国家群のほとんど全てを壊滅させてしまったの。

　人類は、地球まるごとの、滅びを予感したわ。

　そんなとき、だった。アルヴァトーレの始祖がはじめて宇宙にとびだしたのは。」

　会田正行はだまったまま興味深げに宗女姫の熱弁をきいている。

「かれの名はアルカス。正式な発音でなら、ア・ルーカ・スュール。 "到達せし者" 。

　中央アジアの片すみから出て世界中の仲間たちに宇宙空間での建国を呼びかけ、みずからは特に能力あるものたちと共に自力で…いいこと、宇宙船も真空服も使わずに、ということよ…大気圏を離脱。

　最後のキスを地球に投げようとする隕石を捉えて、月に対座するいまの位置に乗せ、軌道をさだめ、 "第二の月" と名づけてＥＳＰによる所領を宣言したの。

　結果として彼の行動は地球を救ったわ。

　アルカス・ディラ・アルヴァトーレの力はすでに偉大という域を超えて、より 神 にちかいものだったと言うもの。

　…これがアルヴァトーレ公国のそもそもの始まりであり、今日に至るまで地球でも宇宙でも、畏れられ、特殊なちからを保ちつづけてきた理由よ。

　で、それから六十年あまりを経て、わたしの父、Mr. ゴウダ・ユク（豪田 行）が、それまで旧国ごとに分裂していた各コロニー群を糾合して、地表の政情をぎゃくに監視できるだけの勢力をもった組織を創立したわけ。

　その功績を買われて父は先代の公女デメテア・アルヴァトーレに精子を提供する権利を得て、公国の援護のもとに宗主の地位についたわ。

　それでもって、いまは彼が宇宙歴を唱えてから二十四年目に、あたるの。」

　要約すればそういった内容のことを、ひと通り話しおえると少女はふっと息をついて姿勢を変えた。

　レクチャーを受けたほうはと云えばぅうむと呻ったきり考えこんでいる。

　やがて大圏降下のための時間がやって来て、二人はいやもおうもなく耐Ｇシートに縛りつけられた。

　長くて短い数分を、しかしアルテミスは慣れているので平然と、マサユキのほうはむしろ初体験に子供のような興奮を内心に隠しきれない表情で、なんなくやり過ごしてしまった。

「…う〜〜ん。どうにも、混乱しただけだな。…」

　やがてまた周囲に余人がいなくなると、困ったようにアゴをかきながら、マサユキはようやく言った。

「なにが？」

「ぜんぶ。」

「だからどのへんがよ。」

「きっぱり全部。だな。」

　漫才のような会話をとばしながら彼らが何をしているかと云えば、アルテミスが手にした小さな機械でもって、あらたに閉じ込められた部屋にとうぜん取りついている盗聴器を "殺して" いるのである。

　すでに地表についた段階で、迎えにでた誘拐作戦の首謀者…ド・ベ大臣といった…に、聞いているマサユキがつい引きとめたくなるような痛烈な皮肉を浴びせかけ、なさけ容赦もなく例の "自殺するわよ" と併用して、しっかりイニシアチブは確保したのだ。

　かといって赤い砂漠の台地のしたに広がる地底王国ユーサリカの、地下宮殿の奥深くに人知れず幽閉されるというシビアな事実に変わりはない。

「どうせ次の間があるのでしょうが。このわたしを監視役の侍女なんかと一緒におくつもり？」

　とて、用意されたメイドを追い出して、ひき離されることのないようスイーツルームの続き部屋にマサユキの寝室をわりふってしまうと、けっきょくカボチャの馬車もただの野菜にもどって、小女王は『塔のなかの姫君』に、おさまるしかないのであった。

（…おとぎ話のパターンにしては、騎士のおまけ付きが変則的ではあったが。）

「…さぞ慌てて取り付けたんでしょうね。ひとりで閉じ込められる予定だったもの。…量も質も、たいしたことないわ。」

　検知器をみながら指示を出し、マサユキに探し出させたそれは、それでも親指のあたまほどのが十三個ばかりある。

　ひといきに握り潰そうとするのをおし留めて、理工系ハードＳＦにつきあい慣れた人間は器用に指先で分解し、部品べつに手帳のページをちぎってくるむと、空にした煙草ケースにまとめてポケットへ入れた。

　きょんとして見ている宗女姫に笑いかける。

　敗者復活戦をするのに何が必要になるものか、などと考えているあたり、根はサイエンスフィクションよりもスペオペな人間だったりするのである。

　意図をさとると同時に、わざとらしくスパイ映画の気障な仕草をまねた彼にウケてしまった少女が、くすくすと白い歯をみせた。

（…続…いてません…★）

（参照したければ資料）
http://85358.diarynote.jp/
２．アトムの子ら。2016年12月2日
リステラス星圏史略　（創作）

（★この続きはこちらでお読み…頂け…ません…★）

↓

http://p.booklog.jp/book/108974/read

リステラス星圏史略

古資料ファイル　５－８

『禁未来シ』

（旧題：『俺と好』）

（大変申し訳ありませんが…

…気長にお待ちください…☆）

リステラス星圏史略

古資料ﾌｧｲﾙ

5-X-1-6-2

『未完史』

第１部　第６章

扉をあけて。

２．アトムの子ら。

http://p.booklog.jp/book/111641

: 著者 :

霧樹里守 is 土岐真扉

as

遠野真谷人

著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ

http://p.booklog.jp/book/111641

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト